

社会資本総合整備計画
「鹿児島市都心部地区のさらなるにぎわいの創出」
【平成23～27年度】

事後評価シート

- ・鹿児島市都心部地区(第2期)都市再生整備計画事業
- ・東千石町19番街区暮らし・にぎわい再生事業

平成28年1月

鹿児島県鹿児島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県		市町村名	鹿児島市		地区名	鹿児島市都心部地区のさらなるにぎわいの創出			
交付期間	平成23年度～27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	9,010百万円			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	A基幹事業	都市再生整備計画事業	事業名						
				【道路】舗装新設・歩道整備事業(平田橋武線、文化通3号線、みずほ通線、唐湊線、萩原小路2号線、諏訪小路2号線、山之口1号線、棧橋線、西田本通線、堀江5号線、上之園12号線、甲突川自転車歩行者道1号線、甲突川自転車歩行者道2号線、二官橋4号線他)、ブルースカイ計画事業(文化通3号線、平田橋武線、高麗通線)						
				【公園】天文館公園再整備事業						
				【地域生活基盤施設】JT跡地緑地整備事業						
	B関連社会資本整備事業	なし								
		C効果促進事業	なし							
			暮らし・にぎわい再生事業							
	当初計画から削除した事業	A基幹事業	都市再生整備計画事業	【道路】舗装新設・歩道整備事業(高麗通線、甲南線)		整備計画期間内での実施が困難になったため削除	全ての指標に関係するが、数値目標は据え置く			
				【地域生活基盤施設】JT跡地緑地・駐車場整備事業		「JT跡地緑地整備事業(市立病院)」へ名称変更	「JT跡地緑地整備事業(市立病院)」で実施しているため、数値目標は据え置く			
				【高質空間形成施設】本庁舎周辺整備事業		「舗装新設・歩道整備事業(山下2号線)」での整備に変更	「舗装新設・歩道整備事業(山下2号線)」で実施しているため、数値目標は据え置く			
				【地域創造支援事業】鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業		新たに作成した鹿児島駅周辺地区都市再生整備計画において実施するため削除	鹿児島駅周辺都市再生整備計画で実施しているため、数値目標は据え置く			
				【地域創造支援事業】市民アートギャラリー活用事業		市単独事業に変更したため削除	市単独事業で実施しているため、数値目標は据え置く			
				【地域創造支援事業】JT跡地緑地・駐車場等整備事業		市単独事業に変更したため削除	市単独事業で実施しているため、数値目標は据え置く			
		B関連社会資本整備事業	なし							
			C効果促進事業	なし						
暮らし・にぎわい再生事業										
新たに追加した事業			A基幹事業	都市再生整備計画事業	【道路】舗装新設・歩道整備事業(中央通線、柳田通線、樋ノ口通1号線ほか1線、二本松馬場通2号線、市庁前線、高野山線、西田21号線、上荒田26号線、山下2号線、天文館通2号線)		安全で快適な道路環境の向上を図るため事業を追加	全ての指標に関係するが、数値目標は据え置く		
	【道路】自転車走行ネットワーク形成事業(山之口通3号線、天神馬場通3号線、中央町4号線、国鉄車両管理所前線、上荒田8号線、ザピエル線、二官橋4号線)				安全で快適な道路環境の向上を図るため事業を追加	全ての指標に関係するが、数値目標は据え置く				
	【地域生活基盤施設】JT跡地緑地整備事業(市立病院)				「JT跡地緑地・駐車場整備事業」から名称変更	全ての指標に関係するが、数値目標は据え置く				
	【高質空間形成施設】加治屋町回遊空間整備事業(清滝川の歩行空間整備)				安全で快適な歩行空間を確保し回遊性の向上を図るため事業を追加	歩行者通行量や居住人口数の指標に関係するが、数値目標は据え置く				
	【地域生活基盤施設】加治屋町回遊空間整備事業(清滝川の歩行空間整備)				安全で快適な歩行空間を確保し回遊性の向上を図るため事業を追加	歩行者通行量や居住人口数の指標に関係するが、数値目標は据え置く				
	【地域生活基盤施設】街なかサービス推進事業				中心市街地における来街者の利便性と回遊性の向上を図るため事業を追加	歩行者通行量の指標に関係するが、数値目標は据え置く				
	【地域生活基盤施設】わくわく福祉交流フェア事業				福祉の交流をテーマとしたイベントを通してにぎわいの創出を図るため事業を追加	歩行者通行量の指標に関係するが、数値目標は据え置く				
	【地域生活基盤施設】天文館公園利用促進事業				天文館公園再整備に併せて多目的広場で実施されるイベント等の際に必要な施設を整備するため事業を追加	入込観光客数、歩行者通行量の指標に関係するが、数値目標は据え置く				
	【地域生活基盤施設】歴史資源を活用したまちづくり推進事業		歴史を題材としたイベント等を通してにぎわいの創出を図るため事業を追加	入込観光客数、歩行者通行量の指標に関係するが、数値目標は据え置く						
	B関連社会資本整備事業	なし								
C効果促進事業		なし								
	暮らし・にぎわい再生事業	なし								
交付期間の変更		当初	平成23年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし				
	変更	なし								

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)
	指標1	指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
2) 社会資本総合整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	中心市街地の入込観光客数	千人/年	7,330	H21(年)	8,300	H27(年)	7,858(H26.8)	8,109	△	あり なし	・官民一体となった各種取り組み等を通して、本市の観光振興が図られ、入込観光客数の増加に寄ることができた。 ・目標の達成には至らなかったが、入込観光客数は順調に増加しており、1年以内の達成見込みがある。
	指標2	いづろ・天文館地区の土日の歩行者通行量(20地点)	人/日	125,101	H22	153,600	H27	122,275(H26.10)	122,275	×	あり なし	・歩行者通行量は、各事業を着実に実施したことや九州新幹線の全線開業効果により、23、24年と増加したが、電子商取引等による通信販売の増加や郊外の大型商業施設の増床、消費税率引き上げを含めた厳しい経済情勢などの影響により、従前値を割り込む状況となっており、今後、1年以内の目標達成は難しい。
	指標3	中心市街地内の居住人口数	人	29,602	H21	31,000	H27	31,634(H27.3)	31,764	○	あり なし	・JT跡地における市立病院の建設と緑地整備に代表されるように、コンパクトで魅力あるまちづくりを推進したことにより、都心居住の促進が図られ、居住人口数の増加に貢献し、目標を達成した。
	指標4	照国表参道(東千石町19番街区)の土日の歩行者通行量(4地点)	人	36,317	H20	43,500	H27	38,910(H26.10)	38,910	△	あり なし	・「LAZO表参道(天文館シネマパラダイス(東千石町19番街区))」の整備以前は、周辺の歩行者通行量は減少傾向であったが、整備後の24年の数値は22年比で約2割増加するなど、周辺へのにぎわい波及効果が見られた。 ・その後、効果は落ち着きつつあり、目標達成は厳しい状況にあるが、26年2月に同施設が面する通りにアーケードが整備され、来街者の利便性、快適性の向上が図られたこともあり、施設周辺の歩行者通行量は、従前値を上回っている。 ・電子商取引等による通信販売の増加や郊外の大型商業施設の増床、消費税率引き上げを含めた厳しい経済情勢などの影響により、今後、1年以内の目標達成は難しい。
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	いづろ・天文館地区の空き店舗率	%	9.0	H22			7.3(H27.2)	7.3			・東千石町19番街区暮らしにぎわい再生事業や街なか空き店舗活用事業などにより、さらなるにぎわいが創出され、空き店舗率が改善している。

モニタリング

計画途中に、指標の達成状況を把握すること(直近で把握している値)

評価値

- ・評価基準日(交付終了年度の最終日H28.3.31)における値
- ・確定できない場合、見込み値を推計

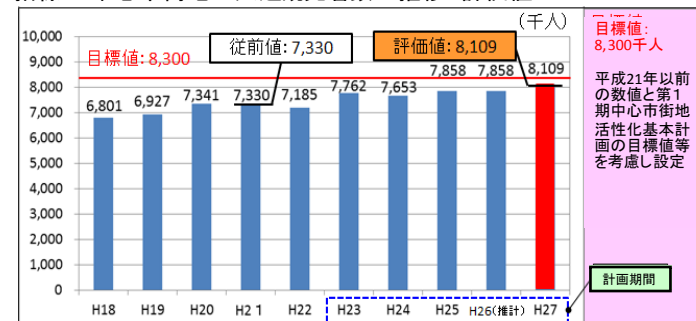
目標達成度

- : 評価値が目標値を上回った場合
- △ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
- × : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

1年以内の達成見込み

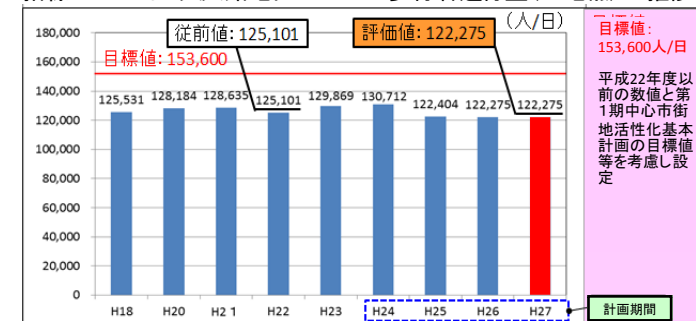
評価値が目標値に達しなかった場合、1年以内の達成見込みを検証

○指標1: 中心市街地の入込観光客数の推移と評価値



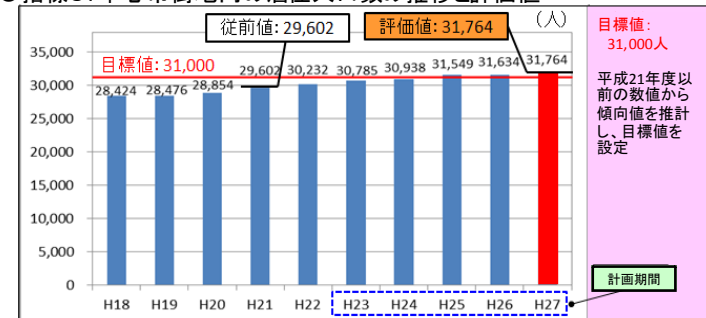
【評価値の根拠】
鹿児島県観光動向調査では、鹿児島市(鹿児島地区)における27年1月から7月までの宿泊観光客数は、対26年比で3.2%増であるため、評価値はこれにあわせて、8,109千人(7,858千人×103.2%)と推計

○指標2: いづろ・天文館地区の土日の歩行者通行量(20地点)の推移と評価値



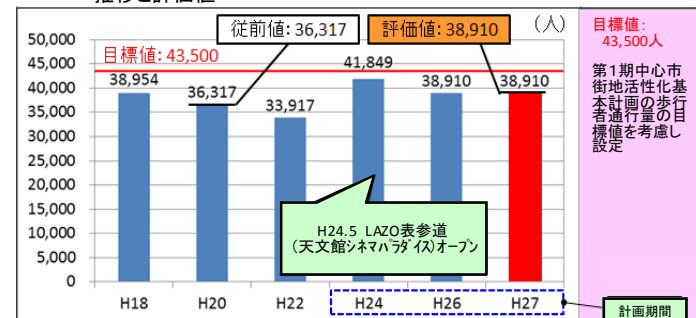
【評価値の根拠】
近年の歩行者通行量の傾向や、厳しい経済情勢などの影響を考慮すると、短期間で大幅な改善は見込めないことから、評価値は、26年と同じ122,275人と推計

○指標3: 中心市街地内の居住人口数の推移と評価値



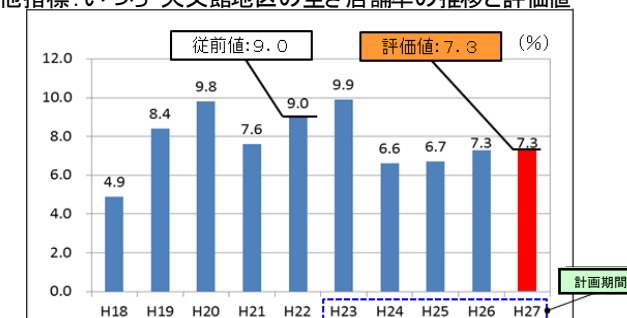
【評価値の根拠】
27年4月から28年3月までに入居可能となるマンションが78戸、入居者数として130人が見込まれることから、評価値は、26年度の31,634人に130人を加えた31,764人と推計

○指標4: 照国表参道(東千石町19番街区)の土日の歩行者通行量(4地点)の推移と評価値



【評価値の根拠】
近年の歩行者通行量の傾向や、厳しい経済情勢などの影響を考慮すると、短期間で大幅な改善は見込めないことから、評価値は、26年と同じ38,910人と推計

○その他指標: いづろ・天文館地区の空き店舗率の推移と評価値



【評価値の根拠】
近年の空き店舗率の傾向や、厳しい経済情勢などの影響を考慮すると、短期間で大幅な改善は見込めないことから、評価値は、26年と同じ7.3%と推計

4)定性的な効果
発現状況

【ブルースカイ計画事業】利用者からは、「電柱がなくなったことで、歩きやすくなった」、「景観がよくなった」などの意見があった。

【天文館公園再整備事業】利用者からは、「以前より開放的で都会のオアシスみたい」、「ステージに屋根がついているので、雨の日や降灰がひどい時でも、イベントが出来る」などの声があった。

【中央駅周辺一体的まちづくり推進事業】25年度に作成したまちづくりガイドラインに基づき、地元主体で美化活動やマップの作成などに取り組まれている。

【歴史資源を活用したまちづくり推進事業】鹿児島とイギリスの文化交流の歴史を題材としたイベント等の実施とともに既存観光施設(歴史ロード維新ふるさとの道、維新ふるさと館)等の利用促進を図ることで、来街者のさらなる誘引、にぎわいの創出に繋がっている。

【東千石町19番街区暮らし・にぎわい再生事業】隣接する大型地下駐車場とつないだ地下通路は、自由通路としており、幹線道路である県道の横断歩行者増の抑制による円滑な交通処理や歩行者の安全性の向上に寄与している。また、26年2月には、施設が面する商店街通りにアーケードが整備され、地下駐車場から雨や降灰等の影響を受けずに天文館へ歩いて回れる環境が整うなど、地区一体として来街者の利便性、快適性の向上が高まっている。

	実施内容	実施状況	今後の対応方針等
5)実施過程の 評価	モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 実施した 実施しなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後もモニタリングを継続的に実施し、さらなるにぎわい創出を図るための事業に取り組む。
	住民参加 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 実施した 実施しなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年に地元が作成したまちづくりガイドラインに基づき、東口と西口のまちづくり組織が連携し、美化活動(継続的に実施中)やまち案内活動(平成27年11月の国民文化祭の開催に合わせて実施予定)などに取り組む。 ● アジア青少年芸術祭開催事業については、今後も青少年による意見をできる限り尊重し、青少年が主体となるイベントとなるよう努める。
	持続的なまちづくり 体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 実施した 実施しなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年に地元が作成したまちづくりガイドラインに基づき、東口と西口のまちづくり組織が連携し、美化活動(継続的に実施中)やまち案内活動(平成27年11月の国民文化祭の開催に合わせて実施予定)などに取り組む。

様式2-2 地区の概要

鹿児島市都心部地区のさらなるにぎわいの創出 社会資本総合整備計画の成果概要

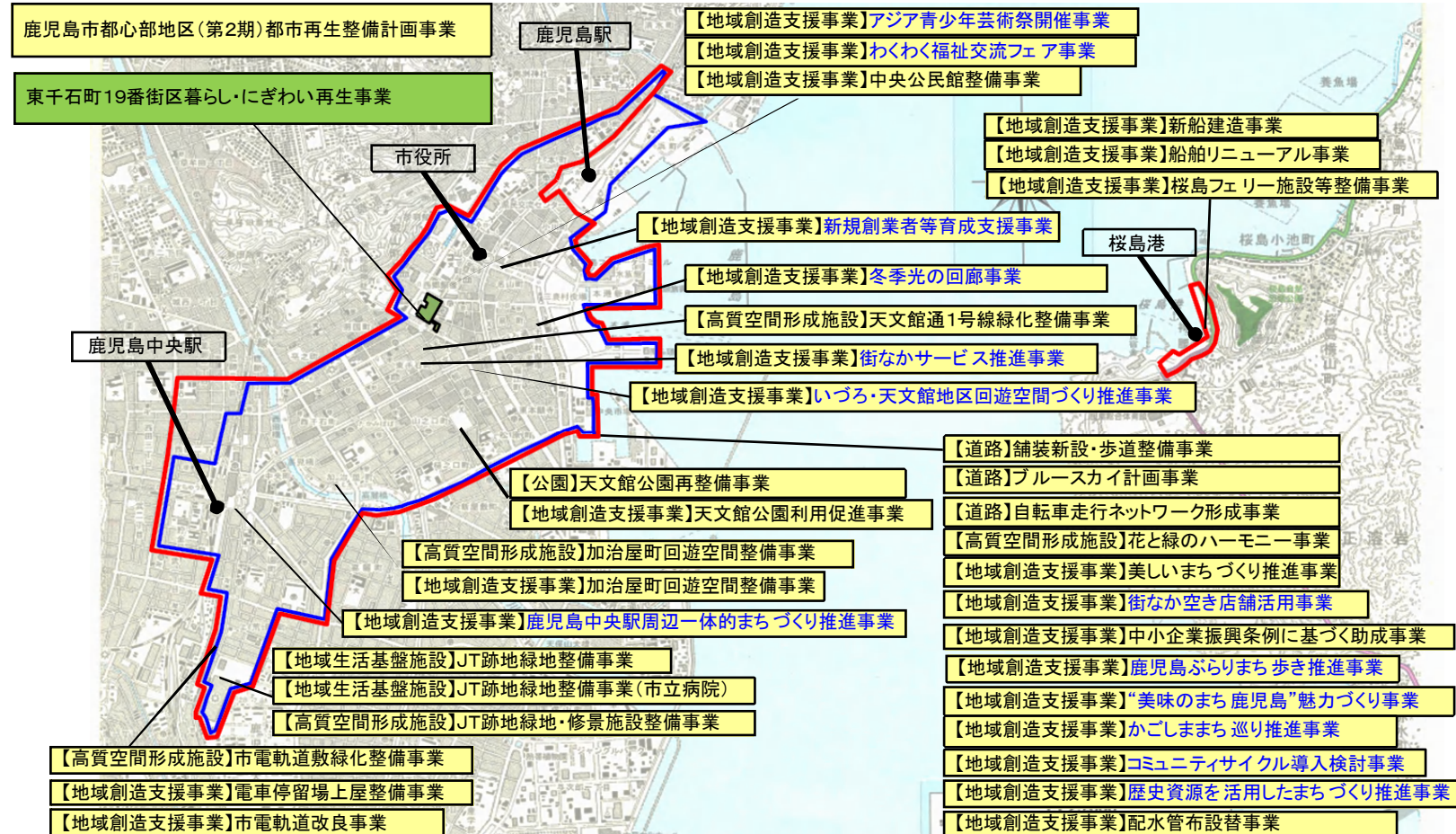
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値		
		従前値	年次	目標値	年次	評価値	年次	
<p>鹿児島市都心部地区(第1期)都市再生整備計画における達成された事項の効果をさらに持続させるとともに、残された課題や新たに発生した課題については、改善策を実施し、さらなる魅力の向上を図る必要がある。</p> <p>九州新幹線全線開業などによる社会情勢の変化に迅速に対応しつつ、ソフト・ハード両面から各事業を進めることにより、観光振興や商業の活性化、居住人口の増加を図り、にぎわいのあるまちづくりを推進する。</p> <p>東千石町19番街区では、映画館を中心とする商業施設の整備により、新たな地区の回遊拠点を創出し、さらなるにぎわいを創出する。</p>	中心市街地の入込観光客数	単位:千人/年	7,330	H21年	8,300	H27年	8,109	H27年
	いづろ・天文館地区(20地点)の土日の歩行者通行量	単位:人/日	125,101	H22年度	153,600	H27年度	122,275	H27年度
	中心市街地内の居住人口数	単位:人	29,602	H21年度	31,000	H27年度	31,764	H27年度
	照国表参道(4地点)の土日の歩行者通行量	単位:人	36,317	H20年度	43,500	H27年度	38,910	H27年度



東千石町19番街区暮らし・にぎわい再生事業



JT跡地緑地整備事業



※ 赤線: 第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画区域を示す。

※青文字はソフト事業



歴史資源を活用したまちづくり推進事業



加治屋町回遊空間整備事業



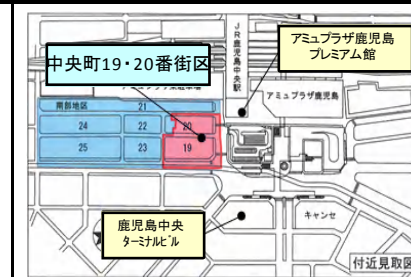
新船建造事業

まちの課題の変化

- 【鹿児島中央駅周辺地区】
- ・ アミュプラザ鹿児島プレミアム館や鹿児島中央ターミナルビルなどが建設され、新たなにぎわいが創出されているが、東口駅前広場の南側に面する中央町19・20番街区は建物の老朽化などにより、活力が低下しつつあることから、一体的な都市機能の更新が求められている。
 - ・ ソフト面では、陸の玄関として、本市のイメージアップにつながる取り組みが求められている。
- 【いづろ・天文館地区】
- ・ 今後さらなるにぎわいの創出を図るためには、新たなにぎわい拠点整備などにより、まちの魅力を高め、鹿児島中央駅周辺地区との回遊性の向上を図る必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 【鹿児島中央駅周辺地区】
- ・ 中央町19・20番街区において、陸の玄関にふさわしい魅力ある都市景観の形成やにぎわいとゆとりある都市空間の創出などを図るため、市街地再開発事業を推進する。
 - ・ 平成25年に地元が作成したまちづくりガイドラインに基づき、東口と西口のまちづくり組織が連携し、美化活動(継続的に実施中)やまち案内活動(平成27年11月の国民文化祭の開催に合わせて実施予定)などに取り組む。
- 【いづろ・天文館地区】
- ・ 魅力ある都市景観の形成やにぎわいとゆとりある都市空間の創出などを図るため、千日町1・4番街区などの民間による再開発を推進する。
 - ・ 市は、We Love天文館や商店街などが取組むイベントなどソフト面の取り組みに支援を行うとともに、「天文館ミリオネーション開催事業」や「鹿児島フルマソン(仮称)開催事業」など民間と連携した事業に取り組み、にぎわいの創出を図る。



中央町19・20番街区(位置図)



中央町19・20番街区(現況)



千日町1・4番街区(位置図)



千日町1・4番街区(現況)